

平成24年2月22日
桑名市小児医療対策会議資料

桑名市の小児医療提供体制 の再構築に関する提言書 (案)

平成24年2月

桑名市小児医療対策会議

～ 目 次 ～

1 提言にあたって	1
2 桑名市の小児医療提供体制再構築のための提言	2
(1) 医療機関の診療体制について	
(2) 市民協働の推進について	
(3) 保健・福祉等との連携について	
(4) 小児医療提供体制等の検討の継続について	
3 桑名市小児医療対策会議の開催	3
(1) 会議の目的	
(2) 会議の経過	
桑名市小児医療対策会議委員名簿	4

◆ 参 考 資 料 ◆

資料1 桑名市の小児医療提供体制の現状と課題	5
(1) 桑名市内の小児医療機関と小児科医師数	
(2) 桑名市の小児医療提供体制	
(3) 小児の受診状況	
資料2 委員からの意見（趣旨）	8
(1) 桑名市の小児医療の現状と課題に関する意見	
(2) 桑名市の小児医療提供体制の再構築に関する意見	

1 提言にあたって

桑名市の小児科医の数は、全国や三重県と比較して極めて少なく、平成 23 年 8 月からは、病院勤務の小児科医の減員により、市内で小児の入院や二次救急の受入れができない状態となっている。

安心して子どもを産み、育てられるような医療提供体制を構築することは、桑名市の将来にとりきわめて重要な問題である。

このような中、桑名市では、桑名市民病院と山本総合病院の再編統合を進め、平成 24 年 4 月に桑名市総合医療センターとして新たなスタートをきることとなった。さらに、平成 27 年 4 月には新病院が完成する予定となっている。

この病院再編統合により地域医療体制が大きく変わろうとしている機会をとらえ、桑名市における小児二次医療提供体制のあり方を検討した。

また、医療提供者と市民双方が、地域全体として小児医療を考え、相互に協力していけるような取り組みを行う必要がある。桑名市において、安心して医療が受けられ子育てができるよう、一日も早い小児医療提供体制の再構築ができることを心から願い提言を行うものである。

2 桑名市の小児医療提供体制再構築のための提言

(1) 医療機関の診療体制について

- ◆ 一次医療と二次医療の役割分担を明確にし、一次医療での患者のスクリーニングを行い、二次医療を行う病院が急性期医療、専門医療に専念できるよう、相互の協力、連携をスムーズに行う体制を構築すること。
- ◆ 地域医療再生計画に基づき、再編統合後の地方独立行政法人桑名市総合医療センターは、速やかに小児科の集約を行うとともに、新病院整備に向け地域中核病院として急性期医療、専門医療を行える診療体制を構築すること。
- ◆ 地方独立行政法人桑名市総合医療センターは、医師に過大な負担を強いることのないよう、ワークライフバランスを重視した働きやすい環境整備を行うため、女性医師等への育児支援や職場復帰支援のための体制を構築すること。
- ◆ 医学生及び研修医を対象とした修学資金貸付制度や市内での小児科診療所開業支援制度等の市独自の制度を設けるなど、小児科医師の確保に向けた取り組みを行うこと。

(2) 市民協働の推進について

- ◆ 市民自らが小児医療を守り、受診行動を考えるための動機づけを行うため、子育て支援施策等を活用し、桑名市の小児医療の現状の周知並びにかかりつけ医を持つことやコンビ二受診の防止についての啓発を行うこと。
- ◆ 育児支援や小児医療を守るための活動を行っている市民団体等との連携とその活動支援を行い、急病時の対応や育児に関する相談に応じることができる体制を強化し、地域で子育て支援を行う体制を構築すること。

(3) 保健・福祉等との連携について

- ◆ 保健、福祉施策による子育て支援の充実や疾病の早期発見、治療及び療育につなげるため、市、桑名保健福祉事務所及び医療機関の連携を強化すること。

(4) 小児医療提供体制等の検討の継続について

- ◆ 医療提供体制が脆弱となっている小児医療や周産期医療については、中長期的なビジョンによる取り組みが必要であることから、今後とも継続して検討、協議する場を設けること。
- ◆ 小児在宅医療におけるバックアップ体制の構築について、将来の課題として調査、研究を行っていくこと。

3 桑名市小児医療対策会議の開催

(1) 会議の目的

地方独立行政法人桑名市民病院と医療法人山本総合病院が再編統合し、地方独立行政法人桑名市総合医療センターとしてひとつの組織で運営されることを契機として、安定的に質の高い小児医療が行え、安心して出産、子育てができるよう桑名市の小児医療提供体制の再構築に向けた提言を行う。

(2) 会議の経過

平成 24 年 1 月 5 日から 3 回にわたり会議を開催し、提言を取りまとめた。

会議の開催経過

	開 催 日	会 議 内 容
第 1 回	平成 24 年 1 月 5 日	桑名市の小児医療の現状と課題について 桑名市の小児医療体制への提言に向けて
第 2 回	平成 24 年 1 月 30 日	桑名市の小児医療体制に関する提言について
第 3 回	平成 24 年 2 月 22 日	桑名市の小児医療提供体制への提言（案）について

桑名市小児医療対策会議委員名簿

(敬称略、五十音順)

氏 名	所 属 等
伊 藤 勉	桑名医師会会長
上 村 喜 美 子	山本総合病院副看護部長
近 藤 久	近藤小児科医院院長
長 坂 裕 二	三重県桑名保健福祉事務所長
平 山 雅 浩	三重大学大学院医学系研究科准教授 三重大学医学部附属病院小児科副科長
松 岡 典 子	MCサポートセンターみっくみえ代表
松 田 正	まつだ小児科クリニック院長
森 谷 朋 子	桑名市民病院小児科部長
渡 部 美 紀 子	桑名市民生委員児童委員協議会連合会 主任児童委員部会部会長

◆ 参 考 資 料 ◆

資料 1 桑名市の小児医療提供体制の現状と課題

(1) 桑名市内の小児科医療機関と小児科医師数

桑名市内の小児科医療機関は、病院が 2 院で小児科医師はそれぞれ 1 人、開業小児科クリニックは、5 院で医師は 5 人となっている。

一方、桑名市の 15 歳未満人口は、20,598 人（平成 23 年 9 月 30 日現在）で、15 歳未満人口 10 万人あたりの小児科医師数は 34.0 人となっている。これは、全国の 88.7 人、三重県の 76.1 人（共に平成 20 年データ）の半数以下である。

表 1 桑名市内の小児科診療を行う医療機関及び小児科医師数

桑名市民病院	1 人
山本総合病院	1 人※
小児科クリニック	5 院 5 人

※育児休業中

(2) 桑名市の小児医療提供体制

①急性期・二次救急医療体制

桑名市における小児の入院及び二次救急医療は、これまで唯一山本総合病院が行っていたが、小児科医師の減少により平成 23 年 8 月 1 日から小児の入院及び救急患者の受入れができなくなっている。このため、市外及び県外の救急医療機関に対し、桑名市内の小児患者の受入れ要請を行っている。

表 2 小児救急搬送の状況

区 分	山本総合病院	市 外 救 急 医 療 機 関	県 外 救 急 医 療 機 関
平成 22 年	282 人	99 人	55 人
平成 23 年	164 人	135 人	170 人
平成 22 年 8 月～ 12 月	122 人	34 人	34 人
平成 23 年 8 月～ 12 月	14 人	77 人	109 人

②一次救急医療体制

小児一次救急医療を行う桑名市応急診療所は、平日夜間（午後 8 時から午後 10 時）及び休日（日曜日・祝日・元日を除く年末年始の午前 9 時 30 分から正午・午後 1 時から午後 4 時）の診療を行っていたが、平成 23 年 8 月 1 日以降は病院

による小児科バックアップ体制が確保できないため、月曜日から金曜日の夜間診療を休診している。

小児科受診者の平均は、平日が 2.1 人、休日が 17.1 人となっており、冬季や連休日の受診が多い。

表3 桑名市応急診療所の診療体制

診療日時	平日	土曜日のみ診療 午後8時～午後10時 (平成23年8月1日以降月曜日から金曜日は休診)
	日曜日 祝日 年末年始	午前9時30分～正午・午後1時～午後4時 (1月1日は休診)
診療体制	平日	土曜日は小児科開業医が交代で診察
	日曜日 祝日 年末年始	開業医(内科医、外科医等)が交代で診察

(3) 小児の受診状況

国民健康保険に加入している小児の平成22年度の入院、外来の年齢区分別受診状況は、表4のとおりである。入院は、0歳が最も多く、年齢が高くなるほど減少している。外来は、0歳から6歳までの未就学児の受診件数が平均を上回り、入院と同様に年齢が高くなるほど減少している。

なお、国民健康保険に加入している小児は、小児人口の約13%であり、市全体としての年間の入院・外来の受診件数は、表4の件数の約8倍程度と推定される。

表4 国民健康保険加入小児の年齢区分別受診状況

年齢	平成22年度		
	被保険者数 (人)	入院件数 (件)	外来件数 (件)
0歳	153	124	1,332
1歳	145	28	1,464
2歳	149	11	1,310
3歳	168	5	1,659
4歳	175	11	1,583
5歳	176	10	1,427
6歳	189	10	1,443
7歳	180	5	1,105

8歳	191	6	1,134
9歳	189	3	1,029
10歳	204	3	1,058
11歳	209	4	926
12歳	202	3	938
13歳	188	15	774
14歳	208	2	704
合計	2,726	240	17,886

資料2 委員からの意見（趣旨）

（1）桑名市の小児医療の現状と課題に関する意見

《医療機関の診療体制》

- ◇ 小児科医の減少により、小児科クリニック及び病院の小児科の医師の負担が増加している。
- ◇ 小児科開業医の年齢が高くなっており、今後 10 年先を考えると若い医師が定着する環境づくりが急務である。
- ◇ 近隣の大きな病院で受入れてもらえているため問題が表面化していないが、市内で入院ができないことで市民に不安が広がっている。
- ◇ 小児科の治療は、完結型を望む親が多く、市内で入院ができない状況を早く解消することを市民は望んでいる。

《市民協働の推進》

- ◇ 子どもを持つ親は、休日や夜間でも診察をしてもらえるような体制を求めている。一方で、コンビニ受診抑制の対策、周知が十分図られていない。
- ◇ 市民自らが、コンビニ受診をしないという気持ちやかかりつけ医を持ち、医師への感謝の気持ちを伝えるといった取り組みを進める。医師も感謝の言葉で報われる。

《保健・福祉等との連携》

- ◇ 市内で入院できないという現状が、子育て不安を増長させ、次の子どもを産むことを躊躇させるなど少子化につながる。
- ◇ 核家族化の進行に伴い、少し昔であれば祖父母に聞いていたような、例えば子どもが発熱したときに入浴をさせてもいいかといった、ちょっとしたことを相談するところがない。
- ◇ 兄弟姉妹の一人が入院すると、別の子どもの託児費用など医療費以外の出費が発生することもある。

（2）桑名市の小児医療提供体制の再構築に関する意見

《医療機関の診療体制》

- ◇ 一次医療は、小児科開業医の役割であるが、病院による二次医療の市内でのバックアップがないと、検査や入院が必要な場合など市外の病院を紹介することになり、親の負担が大きくなる。
- ◇ 一次医療や予防接種などは開業医が行い、二次医療を行う病院では急性期医療や専門医療に専念できる体制づくりが必要である。
- ◇ 桑名市総合医療センターとして統合後は、急性期医療を行える体制を早急に整えてもらいたい、一方で、医師に過大な負担を強いることがないようにする必要はある。

- ◇ 病院再編統合により、桑名市総合医療センターをどういった病院にするかというビジョンを明確にし、若い医師が働きたいと思える病院にすることが必要である。
- ◇ 小児科医や研修医の確保のための修学資金貸付制度や小児科クリニック開業のための補助制度など市独自の制度を設け、アピールしていくことが必要である。
- ◇ 女性医師の増加に伴い、ワークライフバランスを重視した働きやすい環境整備を行う必要がある。
- ◇ 出産、育児等で現場を離れた女性医師が、復職がしやすくなるようトレーニングを行うなどのバックアップ体制が必要である。
- ◇ 桑名市総合医療センターが、将来的に近隣病院における NICU（新生児集中治療室）治療後の在宅医療をバックアップする体制を構築することで、特色のある病院とすることができる。

《市民協働の推進》

- ◇ かかりつけ医がコンビニにならないよう、小児科医を桑名市の資産として大切に使い、本当に治療が必要な人が診療を受けられるようにするといった意識を持たせるような啓発を行う必要がある。
- ◇ 小児科医の業務が、いかに激務であるかを市民に知ってもらい、不必要な受診を控えるといった意識の向上を図る必要がある。

《保健・福祉等との連携》

- ◇ 乳幼児健診や子育て相談、あおぞら出前保育などを活用し、お母さんの不安を解消できるような機会を増やす。